英語　　早稲田大学　文学部　1/2

＜全体分析＞

試験時間	90	分

解答形式

Ⅰ～Ⅳはマーク式で、Ⅴのみ記述式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問Ⅰ～Ⅲおよび大問Ⅴのここ５年の総語数は「2,364→2,436→2,535→2,253→2,317」で、全体的な分量や難易度に大きな変化はない。

出題の特徴や昨年との変更点

大問数・設問数・設問構成ともに、19 年連続して同じパターンを踏襲している。大問Ⅴの要約問題は、2017 年度以降、あらかじめ与えられた書き出し部分に 4～10 語を加え、要約文を完成させる形式が続いている（本文から「連続した３語以上」を借用することはできないことに注意）。

その他のトピックス

・文化構想学部と同一の出題形式である。

・大問Ⅳ（会話文問題）の beat around the bush「遠回しに言う」は、今年度の慶應義塾大学理工学部の大問３（会話文問題）でも出題されている（同意表現選択で avoid the main topic が正解であった）。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	読解総合	(A)「マルハナバチの個性」（258 words） (B)「環境言語学」（284 words）	空所補充問題 品詞や構文だけでなく、文脈にも注意して解いていく必要がある。選択肢には難単語も含まれるが、消去法で対応できるようになっている。	標準
Ⅱ	読解総合	(A)「宗教と政治の違い」（157 words） (B)「詩の批評」（252 words） (C)「叙事詩ベオウルフ」（502 words）	内容一致問題 英文中には難解な部分もあるが、リード文や選択肢のキーワードを手がかりに、解答の根拠となる部分を見つけていくとよい。文章全体のまとめとなるような設問（要点選択・タイトル選択）は、今年度は出題されなかった。	標準
Ⅲ	読解総合	「ガリレオの革命による科学の近代化」（601 words）	空所への文補充問題 人名や指示語（代名詞など）に加えて、時制の違いにも注目しながら論の展開を把握して、埋めやすいところから答えていくと効率的に解くことができる。	標準
Ⅳ	その他	会話文 「プレゼンの準備」にまつわる会話（185 words）	空所補充問題 ７つの空所に対して選択肢が 13 と多いのは例年どおりだが、名詞が表現の鍵となるものが大半で、受験生にはなじみの薄い言い回しが多く、決めにくい。	やや難
Ⅴ	英作文	「マインドワンダリングが促す創造的思考」（263 words）	２つのパラグラフからなる文章の一文要約 与えられた書き出し部分を手がかりにして、〈not A but B〉の構文を用いて、２パラで説明されている「ポジティブな側面」（creativity と problem solving がキーワード）についてまとめることになる。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」
　　難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2025 年

英語　　早稲田大学　文学部　2/2

＜学習対策＞

読解問題では、話の展開を理解したうえで個々の設問の解答のカギになる記述を発見することが重要であるので、設問の解答を導く根拠を探しながら英文を読む習慣をつけるとよい。空所補充の問題では、文脈に加えて文法・語法・語彙の知識も重要になるため、そのような知識を十分に定着させておく必要がある。大問Ⅴの一文要約の問題では、問題文と与えられた書き出しとの整合性を考えながら解答を書く必要がある。英文の要旨を把握する力が試されるので、日頃から論理展開を意識した読み方を心がけ、自分の言葉で（in your own words）簡潔にまとめる練習を積んでいくのがよいだろう。

© 河合塾　2025 年